

姫路藩主・酒井家の墓所は姫路城のすぐ西にあった

姫路の図書館で河合寸翁に関する調べ物をしていたところ、酒井家の墓所が近くにあることが分かった。

十一代将軍・家斉には一妻二十妾（しょう）の間に、五十五人の子どもをもうけたが四十三目の喜代姫が、姫路藩の忠学との結婚の儀（1832年輿入）がなった。

喜代姫（1818～1868）は姫路の地を踏むことはなかったが、ここに墓がある。

1868年は明治元年です。

酒井忠学（さかい ただのり、1808～1844）は、江戸時代後期の大名。播磨姫路藩第5代藩主。雅楽頭系酒井家宗家13代。墓所は群馬県前橋市紅雲町の龍海院。夫婦は別れ別れです。



景福寺

撰津多田庄六瀬（現猪名川町杉生）に総持寺五世通幻寂靈を開山として応安二年（一三六九）創建。山号瑞松山、曹洞宗。

天正年間、十一世大桂宗易が播磨阿閉庄古向（現播磨町の福勝寺）に移転、さらに慶長五年（一六〇〇）池田輝政家臣荒尾隆重の懇請により姫路城下坂田町に景福寺を建立、池田氏の転封により岡山・鳥取にも景福寺が建立され六瀬・姫路とともに世に四景福という。元禄九年（一六九六）曹洞宗中本山。

寛延二年（一七四九）結城松平朝矩が前橋転封とともに当地にあった孝顕寺も前橋に移転。かわって酒井忠恭が前橋から姫路に入封。宝暦四年（一七五四）坂田町にあった曹洞宗景福寺を当地に移転して国許の菩提寺とした。姫路藩酒井家五代忠学正室喜代姫をはじめとする墓石等がある。（酒井家歴代藩主の墓石は前橋龍海院）

また山門金剛力士像一対は鎌倉期の寄木造・彫眼、庫裏の阿弥陀如来立像及び両脇侍菩薩立像は鎌倉期の銅造・彫眼、座禅堂の聖観音立像は鎌倉中期の檜の割矧造・玉眼、本堂内に貞享二年（一六八五）模造朝鮮鐘、本堂北に藩主墓参控所などがある。現本堂は姫路城大手門などの設計を行い近代和風建築者として著名な藤原義一氏が昭和三十七年に設計したもの。

慶応四年（一八六八）戊辰戦争により備前藩は当寺に陣をおき景福寺山上より城に大小砲を放ち姫路城は開城となった。明治十一年（一八七八）境内に姫路中学校（現県立姫路西高等学校）が開校、第一次世界大戦時には建物の一部が陸軍省の俘虜收容所に借上となったこともある。背後の景福寺山には結城松平明矩墓所や幕末姫路城開城にあたった亀山雲平墓石をはじめとする墓石群があり、景福寺山史跡保存会が調査・整備を行った。

平成二十八年三月

姫路市教育委員会

姫路市文化財保護協会

姫路藩主酒井家墓所

五輪塔型三基は東から

姫路藩酒井家五代忠学正室の喜代姫(將軍家育二十五女、文政元年(一八一八)七月八日生、明治元年(一八六八)十二月二十四日没)
 六代忠宝正室の喜會姫(喜代姫女、天保五年(一八三四)三月二日生、明治三年(一八七〇)四月九日没)
 八代忠績の正室婉姫(信州飯山藩主本多助賢女、文政九年(一八一六)生、慶応三年(一八六七)七月八日没)
 円頂方形型三基は東から
 初代忠恭十男の駒之助(宝曆六年(一七五六)十二月二日生、同十一年五月六日没)、
 忠恭六女の与會(寛延三年(一七五〇)十一月十五日生、同年十二月五日没)、
 五代忠学二女で忠實の養女の鎚(天保元年(一八三〇)七月九日生、同三年十一月八日没)
 忠学三女で忠實の養女の紵(天保二年(一八三一)八月十五日生、同年十一月二十七日没)、
 八代忠績長女の鋌(文久二年(一八六二)九月二十七日生、同三年六月二十七日没)
 忠恭九女(宝曆四年(一七五四)五月二十三日生、同月二十五日没)

平成二十八年三月 姫路市教育委員会

←西



東⇒



酒井家

譜代 15万石

1. 忠恭 2. 忠以 3. 忠道 4. 忠実 5. 忠学
6. 忠宝 7. 忠顕 8. 忠績 9. 忠惇 10. 忠邦

河合寸翁(隼之助、道臣)は2代から5代までの4人の君主に仕えた。